平成 29 年度　日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立田尻小学校　教諭　薄井　祐太

1　派遣期日　　平成２９年９月１６日（土）～　９月１７日（日）

2　研 修 先　　学校名（会場名）筑波大学附属小学校

所在地　〒 112-0012　東京都文京区大塚３－２９－１

http://www.elementary-s.tsukuba.ac.jp/

3　研修内容

第３回　日本授業 UD 学会　全国大会 ≪テーマ≫「主体的・対話的で深い学び」と授業 UD

（１）講演　「授業 UD」と「主体的・対話的で深い学び」　　プール学院大学　石塚謙二

①今日的には，「授業 UD」は，共に学び合うことを大切にしつつ，どの子も「わかる・できる」が実感できるよう授業改善に取り組み，教科の本質（「見方・考え方」の深化）と確かな学力（知識だけでなく問題解決能力等の追求）につながる深い学びの実現を期することと考える。それ故，「授業 UD」は「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた有効な考え方・進め方である。

②「授業 UD」と「主体的・対話的で深い学び」の方向性は同じと考える。今後，「主体的・対話的で深い学び」の充実を求めるとともに，子どもの多様性にも的確に応じつつ，どの子にも達成間のある取組を実現したい。

（２）　授業公開　国語科１授業・算数科２授業を参観

①第３学年　国語科「モチモチの木」

研究主題：授業 UD と「主体的・対話的で深い学び」-「マイナス・プラスの読み」で物語を読む-

○物語の，言葉だけによる解釈の交流だと，理解が難しい子がいるので，「マイナス・プラス」という解釈のツールを活用することによって，物語の内容を解釈しやすくなっていた。

○「マイナス・プラスの読み」を働かせることで，場面の移り変わりをふまえて，＜豆太＞の人物像や心情の変化について読み深めていった。

○ダウト読み…教師が教材文を読み，間違えているところがあれば「ダウト！」と児童が言って間違えを指摘していくことで，教材文の読みを深める手立てが行われていた。

○児童の発言を「それってどういうこと？」と他の児童に問いかけ，他の児童の発言を聞く姿勢を育てていると感じた。

②第５学年　算数科「単位量あたりの大きさ（速さ）」

研究主題：単位量あたりの大きさの学習で用いた考えを活用して速さの比べ方を考える場を，どのように設定するか。

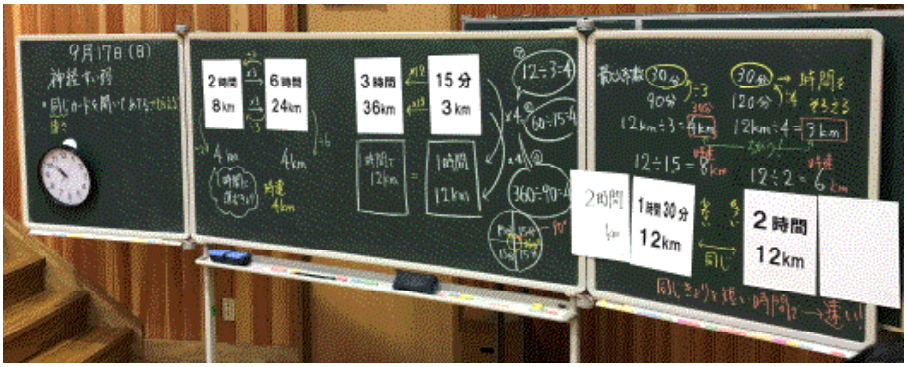
○同じ速さのカードを見つける神経衰弱ゲームを行い，子どもが自分たちのわかる形に変えて，それを言葉や式で表現していく場を設け，速さの計算の仕方を理解していった。

○神経衰弱は，６枚のカードで行うが，あえて２ペアしか揃わないようにしておき，「これじゃダメだ」「カードが間違ってる」というところから，児童の発言をつなぎ，速さの比べ方を考えていくという課題にアクセスした。児童が主体的に課題へと向かう導入だった。

○児童にとっては，時速で「時間」を揃えるよりも，100m 走のように「道のり」が揃っている方が実感しやすいので，速さの違うバイクが走る映像を見せ，「同じ道のりを短い時間で走った方が速い」というイメージをもたせていた。

○「揃える」ということが重要。「単位量を揃えれば比べられる」ということは，割合も同じである

ことを理解させていくことが重要である。



③第２学年　算数科「長さを調べよう（１）」

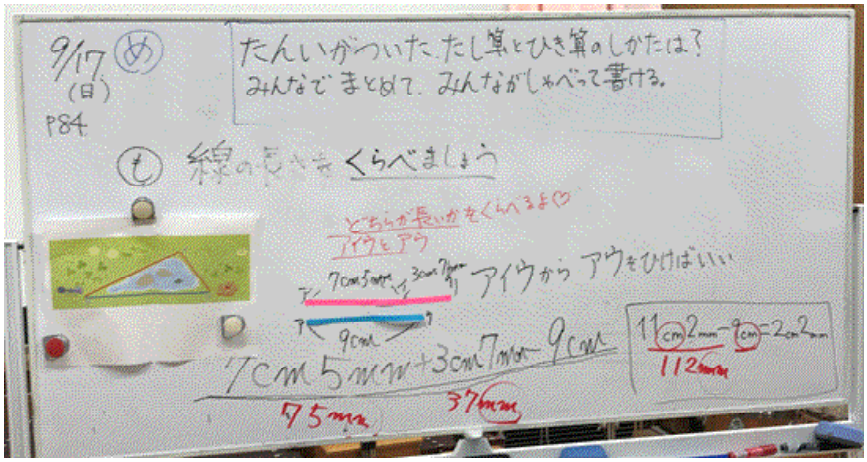
研究主題：すべての子どもが”主体的・対話的に深く学ぶ”算数科 UD の授業づくり

〇解決する課題を焦点化するために，問題文の中の結論が何なのかを話し合い，活動の見通しをもたせていた。

〇主体的な学びとなるように，子どもたちのことばでめあてをつくった。

「長さのたしざん，ひきざんのしかたは？みんなでまとめ，みんながしゃべって書ける」

〇主体的，対話的な学びになるように，「みんなで」がめあてなので，解けた児童は，他の児童へ教えに歩いてよいことにし，児童は積極的に教え合っていた。



４　感想

〇どの授業でも，教師は児童一人一人の発言を丁寧に聞き取り，しっかり反応を返してあげていることが印象的だった。そのやりとりが，児童同士の発言をつなぎ，学びが深まっていた。

〇教師が，「難しいな，分からないな，という人いるかな？」と問いかけると，手を挙げる児童が何人もいる。「分からない」ということを言える雰囲気があり，それを児童同士が教え合える学級経営が授業づくりには大切であると感じた。副校長の田中博史先生の講演にも，「発表では，困っていることを言っていいんだ，ということを伝えるために，わざと間違わせるような場面をつくる」「〇年生だったら，どんな間違え方すると思う？と聞くと，誰かの姿を借りて話すことができる」など，間違えられる雰囲気づくりについてのお話があり，その重要さが分かった。

〇授業 UD は，環境を整えるばかりではなく，課題へのアクセシビリティを考えることや，板書をするときに，まず４文字くらい，すぐに追いつける文字数で机間指導をしてスタートを揃えてあげるなど，授業中のちょっとした工夫で行えるものがたくさんあると分かった。それらの気づきを，実際に自分が授業の中で行えるように，この研修を生かして研鑽を積んでいきたい。